

入選

自転車と私

徳島県 城ノ内中等教育学校

1年 棚田葵泉

私はこの春から中学生になり、汽車通学をしています。私の通う学校の最寄り駅は、治安が良いとは言えず、駐輪場では自転車やカゴの中のレインコート、ヘルメットが盗まれることもあるそうです。私は、最寄り駅から学校は自転車で通学していて、駐輪場に自転車を止めるときは鍵を閉めているか確認していました。

ある日の朝、汽車を降りて駐輪場に向かうと、私の自転車がきのう止めた位置にありませんでした。盗まれたのかと不安になりましたが、私の自転車は倒れていました。きのう自転車を止めた時点で無かった自転車が、むりやり入れられたように倒れていたため、汽車の出発に焦った人が乱暴に自転車を止めたのでしょう。

3台を巻き込むように倒れていて、私1人の力では周りに人がいるため、自転車を持ち上げられませんでした。周りの人が全員出てから持ち上げようと思いましたが、最寄り駅から学校までは友達と行って、待たせるのは気が引けました。

迷惑をかけず、自分で持ち上げたい。そう思っていると、近くに女子高校生が来ました。通路を開けようとする、女子高校生が自転車たちを持ち上げてくれました。一瞬のことで、私は驚きました。治安のあまり良くないところでは、自転車が倒れていても当たり前で、だれかが自転車を持ち上げてくれる、ということはないと思っていたからです。

私は、女子高校生の方だって、学校があって急いでいるはずなのに助けてくれたことが嬉しく、同時に申し訳なさも込み上げてきました。

「すみません、ありがとうございます。」

申し訳ない気持ちと、自転車を持ち上げてくれたことに、「助けてくれてありがとう」という気持ちを込めて、お辞儀をしながら言いました。すると、「いえいえ、どういたしまして。」と言って、優しくほほえんでくれました。その顔を見るとひどく安心して、もう一度深々とお辞儀をしました。

お辞儀をしながら、困っている私に気づいてくれたことが嬉しく、「助けてくれてありがとう」と何度も何度も温かくなった心の中で思いました。私は困っていることに気づいて、手をさしのべてくれる、そのことがとてもとても大切で必要なことだと知りました。

この体験をして以来、私は倒れている自転車を見過ごせなくなりました。自転車が倒れているなんて、ほんのちょっとしたことだけれど、自転車に乗ろうと思って倒れていたら、やはり困るし、落ち込みます。私があの子高校生のように、困っている人を見て、行動に移せるかはわかりません。ほんのちょっとの親切でも、勇気がいると思います。それでも、困っている人を見たら「何とかしたい」という気持ちになります。

それを行動に移せるように、女子高校生の与えてくれた小さな親切を繋げるように、私のできる小さな親切をしたいです。